

ウガンダの病院環境改善へ！～サラヤの医療器具洗浄消毒器～

JICA は 12 月 5 日に、ウガンダでの感染症予防を目的とした全自動医療器具洗浄消毒器導入に関する普及・実証事業に関する業務委託契約を、大阪府大阪市のサラヤ株式会社と締結しました。この事業は、ウガンダにある 4 か所のモデル病院を対象に医療器具の全自動洗浄消毒器を設置することで、医療器具の不十分な洗浄・消毒に起因する院内感染（病院内で新たに細菌やウイルス等の病原体に感染すること）の防止を試験的に実施し、国内での展開の素地づくりを目的とするものです。

これまで、サラヤ株式会社は 2011 年にウガンダ現地法人「サラヤ・イーストアフリカ株式会社」を設立し、そこからアフリカ全土に手指消毒を広めることで感染症予防に向けた取り組みを進めてきました。

ウガンダの 5 歳未満児死亡率は出生 1000 対 90 と高く、その死亡要因の多くが保健・医療分野における環境整備の不十分さにあることが指摘されています。また、医療従事者の感染症対策に関する知識不足や、医療機器の衛生状態が良くない等の理由から、医療従事者や乳幼児を含む多くの患者が無用な院内感染に罹患する事例や院内感染によるものと思われる死亡事例が多数報告されています。



今回実証する製品はコンパクトな卓上型仕様であり、製品庫内に使用済み医療器具を挿入し洗剤をセットすれば、あらかじめ設定されたプログラムに基づき、予備洗い、洗浄、すすぎ、熱水消毒の各工程を自動的に行うことができます。また、熱水消毒によりほとんどの細菌・ウイルスを死滅又は不活性化することが可能です。

今回契約した事業では、ウガンダの 4 病院において全自動医療器具洗浄消毒器を導入

します。電気・水の供給状況が不安定な地域にある病院にも対応できるよう、ソーラーパネルや蓄電システム、貯水タンクで補うなど、現地環境に合わせて改良するのが特徴です。また、洗浄消毒器で使用する洗剤の現地製造化を進め低コストで利用できる環境整備も進めます。さらに、院内感染予防に関する教育啓発活動を組み合わせて展開することで、医療従事者ならびに患者の院内感染リスクの低減を目指します。

上記取り組みは、我が国の中小企業を対象に、JICA が本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。この事業は、我が国の中小企業などの製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたもので、平成 25 年 5 月に第一回の公示を行いました。